（本號十二面）　（明治廿五年三月十一日　郵便信書認可）　明治三十年四月二日　第四千八百八十六號　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

明治三十年四月廿一日　第四千八百八十六號
舊暦丁酉三月二十日（己酉）
西暦（千八百九十七年）一百五十四日
年末まで一百十一日
日入　午後六時十八分
月入　午前七時十四分
朝潮　午前八時十分
午後八時三十四分

社告（廣告料改正）

時事新報第一紙面　廣告料一行金二十五錢

時事新報紙面の廣告が世上の新聞紙に勝れて効能あるは今更申す迄もなけれども殊に其第一紙面は他の紙面に倍して効能著しきより從來同紙面に掲載方依頼の向多く其都度取捨選擇に苦しむあと聞かるるは自今第一紙面に限り廣告料一行廿五錢に改正候間左樣御承知被成下度候也

布哇へ社員特派

移民拒絶事件の真相視察の爲め今回我時事新報社は社員西師意氏を軍艦浪速に便乘せしめて布哇國に特派したり談判の模樣は勿論、同國の事情は最も迅速なる方法を以て報道す可し

社説

軍馬の養成

陸軍に軍馬の必要なるは海軍に軍艦の必要なるが如し今回帝國の增設に就ては差當り之に應ずる丈の軍馬を備へざる可らず平時は兎に角戰時に於ては一騎に付て平均三頭の馬を要するのみか一人の步卒の爲めにも糧食の運搬に平均一二頭の駄馬を備ふるさへ中途にして斃るゝものあれば進軍に差支を生ずるなど馬匹の軍事上に大關係あるは日清戰爭の經驗に徵しても明白なれども我國には軍用として繁殖す可き適當の良馬なく又これを養成するの道あるを聞かず政府が曩に馬政調査會を設け討議の末、視察員を歐米に派遣し又今回の議會に種牡馬檢査法案を提出して一個の法律を造りたるは茲に悟る所ありて大に全國の馬匹を改良して以て軍用に充てんとの意に外ならざる可しと雖も僅々二三萬の軍馬を求むるさへ容易ならざるに國中百五十萬の農馬を悉く完全にして事あるの日には全國皆兵馬にせんとの望は果して能く目的を達し得可きや否や抑も今度の馬匹改良は農業上の必要に起りたるに非ず軍用上の必要に促されて始めて着手したるものなるに然るに却て世間の改良熱に浮かされて軍馬の急を忘れ方針を轉じて民間一切の馬匹をも改良せんとするに至りては實に本末顚倒なるを免れず之を席上の空論なるを免れず之を云へば可し左樣歟本末顚倒に於ては殆んど農馬の改良を以て軍馬の改良に代用するが如き觀あり其他特の大なるに至ては恰も牛の如く牛車の重きを牽きて僅に駄馬を牽き或は人の多しと云ふ我國の馬事者が是等の缺点を顧みて後進北海道へ大量に此種の種馬を移して內地に繁殖せしめんとの考を起すは無論なれども深く御ひるに足らざれども所謂の田畑は僅に三四反に過ぎる小農の多き日本の內地に他國の例を其儘に移し出さんとするは事情の異なる所なり田舍地方一般の實際を見れば一日に一反を耕し又二俵の米を背負ふて日に三里の路を走る馬なれば年齢又は仔供が之を乘で片手間の駄賃を得るには充分なりとて寧ろ柔弱のものを望む習慣なるに今度の法律にては此等の農馬をも悉く改良して强健ならしめんとて一々種馬を檢して私の種付を許さずと云ふ其檢査にして寬なれば左までの差支もなけれども斯くては自由に放任するの優れるに如かず左ればとて之を厳にすれば いよ〳〵種付の不自由を感じて貧民の困難容易ならず假令ひ種付を無料とするも尋尾の期節は三月より五月までとなりて耕作摘茶養蠶等に最も多忙の時なるに近傍幾箇村の牝馬を集めて之を行ふには豫め期日を定めざる可らず之が爲め二日も三日も空しく費すは寸暇を惜む農民の堪へ難き所なり或は斯くの如くにして目下に急なる軍馬改良の目的を達し得れば固より贊成する所なれども本來軍馬と農馬とは全く養成法を異にして軍馬は必ずしも大なるを要せず兵卒の自由に使役し得るを度として力强く性多きを尊ぶ等その性情骨格に就て要する所甚だ厳重なれば軍馬として養成したるものは或は農馬に使用し得べきも農馬として養成したるものは決して軍馬に適す可からず西洋などにては軍馬は華奢にして農用に適せずと云ひ我國にては却て强大に過ぎて農用に適せずと云ひ苦情の原因は同じからざれども古來の風習として箱庭同樣の馬場を駈け廻り數國の快走に差支なき乘馬を最良と心得居る我國民に向て蹇蹇風雨に拘はらず到る處の山川原野を跋渉して非常の困難に堪へしむるを目的とする今の軍馬を農用の傍に養成せしめんとするは容易に望み可らざる所にして實際に無益の勞なれば一般馬匹の改良は姑く後日の談として我當は今の農商務省內に更らに馬政局を設けて軍人をして之を統督せしめ南部産と東見産とを問はず産馬に最も適當なる地を擇びて大に軍馬養成の道を講究するみそ適宜の方法なる可しと信ずるものなり

○クリート嶋事件彙報

希臘の應援者　露國英國及び丁抹の宮中に竊に希臘王へ氣脉を通ずる一味の輩ありて巧に王を援けたりと雖も爲め希臘政府は機密費の一錢をも費さずして能く是等三國が外交上の各遮斷を無知し以て此三朝廷の內に在る希臘の數の強力を未副に算定するを得せしめたり畢竟彼の有嶋が最強の壓迫手段に依て事の落着を直に告げしめんとするの商議、徒に遲延するも全く此事情あるが爲めなり是に於て

御迅速政府は柔然　として、爲す所を知らず今は陣頭より引下て唯だ一心不亂、露國の話發なる外交に臨行する事と成んかと、「以上アゼンス」

クリート嶋貢入れ　れんみとを中心で事の次第をば驚れて土耳其朝廷に書接の關係あるを知て一遍問前、嶋にはアゼンス大佐を訪ひたりとの風說、常府に行はる

土耳其兵の暴虐　希臘一士官の言に土耳其兵は希臘士官及びクリート兵士の一團隊がサローニカの左る寺院に於て折しも死者の葬儀に從事中、該寺院をダイナマイトもて破裂せんと企てたりと云ふ

佛國の擧動　クリートより歸來せし希臘運送船は報じて云く佛國軍艦一隻、警戒の空砲を放ちたるにも拘はらず本運送船は補給荷物の半ばを上陸せしめたりと佛國は希臘第二の皇子ジョージをしてクリート嶋大守たらしめんとの議論を支持するものと了解せらる（以上アゼンス三月二十二日發）

飢ゑて戰はんとす　希土兩國が運兵したる軍隊を長く維持せんと欲ふ得可きに非ず彼等は飢ゑて戰ふに至る可し即ち兩國の思ふ壺ならんか

開戰と共に蜂起せんとす　アゼンスの倫敦タイムス通信者云くヨエルーサレムよりの報道に據れば在パレスチナに臨むに當つて常に稱して曰く予將に土耳其人と鞭を弄ばんとすとマンデコス今果して何れにかあるカニア大戰の後同市背後の山中に入りて再擧を謀り居りしといふ（グラフィック）

○クリート嶋の酋長

名をマンデコスと云ふ豪勇絶倫性剛陰にして氣を好み土耳其人を鉄鞭し之を苦しむるを以て無上の快とす戰

タインの希臘人並に亞剌比亞人は驍近の事變を觀て大に激昂せり彼等の數千人は寺院に參集して希土開戰と共に土耳其に向て兵を擧げんと用意最中なりと

多嶋海も亦蜂起せんとす　倫敦デーリーメール新聞社に着せしコンスタンチノープル通信に多嶋海中總べての嶋の希臘人は希土開戰の布告あるや否や土耳其に叛て義兵を擧げん其爲め正に武裝し練兵するに忙しと云へり（以上倫敦三月廿二日發）

土耳其兵の敗逃　エラッソーナにまで達し得たる英米人一行は報じて云ふやう該所に在る土耳其兵は少くも三萬五千人、野砲百六十門を具へたり又ヴェリアには尙は百門あり彼等は土耳其軍隊の內に多くの獨逸士官を見受けたるのみならず近日に數多の普魯斯士官も來るなりと聞きたり土耳其兵には馬匹の缺乏を認めたり（ラリッサ三月二十二日發）

前面の敵後門の虎　中に挾せりし老大の「病人」みと笑

○米國の

下に掲ぐるは米國の[illegible]め華盛頓に向け其[illegible]し車なり此車は[illegible]られてコラムバス[illegible]來政治的旅行には[illegible]ゲニア鐵道の西[illegible]所有にて第三十八[illegible]て組立て厚さ一枚[illegible]の跡を示さず其堅[illegible]の不幸に遭ひて他[illegible]列車のみは決して[illegible]は四方の景色をも[illegible]ものにて休憩室は[illegible]りては老も車中と[illegible]國につきて見るべ[illegible]客は恰も輕禁獄に[illegible]